

2024年度春季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書

参加プログラム：ベトナム 児童福祉



現地の子どもたちと遊んでいる様子



作成した桜の壁飾りと記念撮影

1. 参加目的

このプログラムに参加した目的は主に二つあります。一つ目は、海外で一人で生活する経験をすることです。海外で生活をするの最も難しいことの一つは、日本語が通じないことだと思います。自らを困難な環境に置き、日本語に頼らず全て自分の英語の力で生活することで、英語のスキルの向上と困難も一人で乗り越えられるという自信をつけることができるようにしたいと考え、このプログラムに参加することを決意しました。二つ目は、ボランティアをして現地の人の助けになるということです。障がいを持っている弟がおり、障がいを持つ人の助けになりたいという気持ちが強くあります。国内のボランティア活動には何度か参加したことがありますが、海外でボランティアをして国を超えた繋がりを持ち、自らの行動の幅を広げたいと考えました。そしてこのプログラムを知り、ベトナムの障がいを持つ子どもや施設の先生を支えたいと考えました。

2. ボランティア実習内容について

ボランティアの実習の内容は、主にクラスの壁につける飾りを作ること、子どもたちと一緒に遊ぶこと、子どもたちにご飯を食べさせることの三つでした。私が担当したクラスは自閉症のある子どもたちで、知らない人と仲良くなることに抵抗がある子どもたちでした。そのため、壁飾りを作ることから始め、日数を重ねていくうちに、知らない人から壁飾りを作り毎日来てくれる人、たまに一緒に遊んでくれる人というように、子どもたちが少しずつ身近な人だと思ってくれるようにしました。ボランティアの後半では一緒に遊んだりお出かけをしたりしました。私の担当のクラスの子どもたちは自分でご飯を食べる練習をしていたので、お昼ご飯の時間では他のクラスに行き、ご飯を食べる手助けをしました。

3. プログラムを通して学んだこと

プログラムを通して、言葉を交わすことができない人どのようにコミュニケーションを取るかを学ぶことができました。日本語と英語しか話することができない自分とベトナム語を話すベトナムの人とコミュニケーションを取ることは簡単なことではありませんでした。ジェスチャーや翻訳をして一生懸命にコミュニケーションを取り、大変でしたがお互いの気持ちが伝わった時は非常に嬉しい気持ちになりました。また、笑顔の大切さが改めて分かりました。お互いの気持ちがうまく伝わらなくても、笑顔でいることでお互いに嫌な気持ちにならず、どうしたら伝わるかを考えることができました。子どもたちと接する時も、ベトナム語で話しかけることはできなくても笑顔でいることで仲良くなることができました。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

初めて海外に行き、一人で現地には日本人もいないという環境だったことは、日本を出たことがなかった自分にとっては、負担の大きいものでした。ベトナムに行くことも、子どもと一緒に過ごすことができることもとても楽しみにしていましたが、やはり日本語が通じないという環境で緊張と不安が高まり、初めの何日かは大変だったと感じています。ですが、現地の人たちが優しく話しかけてくれたり、サポートしてくれたりしたおかげもあり、毎日楽しく過ごすことができました。ボランティア活動をして、自分のしたことで感謝されたときや、何かを任された時はとても嬉しかったです。また、ベトナムの文化に触れ、ベトナムについてたくさん知ることができたこともとても楽しく、いい経験だったと感じます。